

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 多文化まちづくり工房

1. 事業名称

ともに生きるまちづくりのための日本語

2. 事業の目的

多数の外国人が集住する地域において、日本語教室は日本語習得の場・人のつながりを作る場として外国人住民にとっては必要不可欠な場であると同時に、日本人住民の高齢化が進む中で、これからの地域を支える人材を育てるという意味では、地域にとっても重要な場である。日本語教室という場を、地域の自治会や学校、様々な行政機関などと連携しながら作っていくことで、外国人住民とともに暮らしていくまちづくりを行なっていく。

3. 事業内容の概要

「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」等を参考に、この地域で生活していく上で必要な日本語を学べるよう、地域の諸機関と連携しながら教材を作成しながら、それを実際に日本語教室の中で活用する。また、その場に関わる外国にルーツを持つ人をはじめとする若い世代の育成を行う。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年8月31日 13:00～15:30	2時間	いちようコミュニティハウス	堀江廣史、深山武志、早川秀樹、消防署員2名、警察署員2名、地域団体関係者2名	「ともに生きるまちづくりのための日本語」教室のねらい 事業の今後のスケジュール 地域の協力体制の確認 消防や警察等との連携について 通報訓練などの実施について	事業全体の説明を行い、教室で扱うおおまかな内容や教材についてはメインについては「大地2」と文化庁の教材などを使用し、初歩の学習者には基本的に別内容でサポートし、合流できるよう努力する。全体事業の流れについて説明。こ地域の協力体制についても確認。消防や警察なども協力してくれるが交通機関などについてはなんとも言えないが、可能な限りアプローチしていく。区役所を通して働きかけられないか。郵便局はある程度協力してもらえそう。9月8日にコミュニティ・消防・当団体で119番通報訓練を企画しており、授業の中で扱った後、地域の取組としてそこに参加してもらう形を考えている。
2	平成24年12月15日 15:00～17:30	2時間	多文化まちづ	深山武志、安達真弓、廣瀬真理、長谷部美佳、早川秀樹	日本語教室の状況確認と今後の授業内容について 養成講座の状況確認と今後の内容について 教材作成の状況確認 参考教材の提案および購入について 次年度での実施について	日本語教室は順調にスタートしている。地域との連携もうまくいっており、自治会からのサポートもある状態。養成講座も順調にスタートしており、これからの地域日本語教室を支えていく人材になってくれると思う。地域も今後の人材として期待したい。教材については少し苦勞している。交通機関などはあまり協力的ではない。それぞれの事情もあるのだろうが。今後の教材として、場面を中心としていて、使いやすい教材はないか。最近では「できる日本語」や「にほんご宝船」などが評判がいいようだが、実際に使ってみてはどうか。次年度の事業の申請がすぐに迫っており、継続して申請したほうがいいか、検討中。時間的に短く、場合によって書類が間に合わないかも。もし申請できなくても、次年度も同様の教室は行うべきではないか。
3	平成25年2月16日 14:00～16:30	2時間	多文化まちづ	堀江廣史、安達真弓、廣瀬真理、長谷部美佳、早川秀樹	日本語教室の状況確認および評価について 養成講座の状況確認と今後の内容・活動内での人材活用についてと評価について 教材作成の状況確認 次年度の事業のあり方について	日本語教室は就職や出産などで抜けてしまうケースも多いが、同時に新規学習者も来ているので10名前後で推移している。来られなくなる理由はおめでたいことが多いので、不安定なのは仕方のない状況ではないか。定時制高校進学希望者も4人いるが、能力的にz船員合格できるのではないか。高校との連絡も密にとっており、受験に向けてのサポートも例年通りしっかりできたのではないか。学習者としては今後も継続して学習を続けたいようだが、今後教室はどうするのか。地域としては今後も継続してほしい。文化庁の申請は書類が間に合わず、今回は諦めざるをえなかったため、次年度はボランティアなどでの運営を検討。養成講座は今夜修了だが、夜の時間帯での活動には参加してくれるのではないか。しかし、昼の時間帯で動ける人材となると新たな方法での確保が必要ではないか。教材作成は現在翻訳依頼手前の状況。翻訳をすれば、他の教室や地域での活用も考えられるのではないか。

【写真】



5. 日本語教室の設置・運営

(1) 講座名称 地域で学ぶ日本語教室

(2) 目的・目標

地域に住んでいる外国籍住民が仕事に従事していない時間、あるいは学校に行っていない期間を使い、日本で暮らす基礎となる日本語を、母語でのサポートを受けながら集中的に学び、地域生活に必要な日本語能力と知識を身につける。同時に、地域の側が外国人との共生について考えていくきっかけにもする。

(3) 対象者

いちょう団地およびいちょう団地周辺に定住するインドシナ難民関係者など、来日直後から数年程度の人を中心とした初級学習者。

(4) 開催時間数(回数) 100 時間 (全 50 回)

(5) 使用した教材・リソース

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集、自作教材、日本語初級大地 2、大地 2 基礎問題集、大地 2 教師用ガイド、にほんご宝船いっしょに作る活動集、にほんご宝船教える人のための知恵袋、できる日本語初級本冊、できる日本語教え方ガイド初級、できる日本語わたしのことばノート、できる日本語初中級本冊、できる日本語教え方ガイド初中級、できる日本語わたしの文法ノート、みんなの日本語文型練習帳Ⅱ

(6) 受講者の総数 23 人

(出身・国籍別内訳ベトナム 14 人、カンボジア 8 人、フィリピン 1 人)

(7) 受講者の募集方法

地域で配布している情報誌に掲載し、地域内で配布したり、生活相談や既存の日本語教室で配布して募集した。

(8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年 8月28日 10:00~ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	10 人	ベトナム(5人)、 カンボジア(5人)	レベルチェッ ク、自己紹介	簡単なテストを行う。その後、自己紹介をしてもらい、より発展的な自己紹介の方法を教える。
2	平成24年 8月31日 10:00~ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	11 人	ベトナム(5人)、 カンボジア(6人)	自己紹介	前回の学習を活かした自己紹介をしてもらう。日本に来てからの話や自分の出身地などについての紹介も行う。
3	平成24年 9月4日 10:00~ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	9 人	ベトナム(4人)、 カンボジア(5人)	~くなります、 ~になります す、~と、~ま す、災害伝言 ダイヤルの使 い方	状況の変化の表現を学習。道の案内についても学習し、周辺の施設への行き方について説明を実践してもらう。また、災害伝言ダイヤルの使い方について学び、実際に体験利用してみる。
4	平成24年 9月7日 10:00~ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	12 人	ベトナム(6人)、 カンボジア(6人)	119番通報、 ~て来ます	「~て来る」について学ぶ。その後、作成教材を使い、119番通報の方法について学び、実践する。
5	平成24年 9月11日 10:00~ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	8 人	ベトナム(4人)、 カンボジア(4人)	可能形	可能形について学ぶ。自分ができることについて紹介してもらう。
6	平成24年 9月14日 10:00~ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	11 人	ベトナム(6人)、 カンボジア(5人)	災害時の対 応、られるよ うになります 、られなくな ります	できることの変化の表現について学ぶ。それを使って、災害時にできなくなることについて考える。その後、地震が起きた時、どうすべきかについて学ぶ。
7	平成24年 9月18日 10:00~ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	10 人	ベトナム(6人)、 カンボジア(4人)	~ので~、~ か、	理由の説明について学び、その後疑問詞を含む文の名詞化について学ぶ。前回の災害の話と絡めて、実践的に話をしてみる。
8	平成24年 9月21日 10:00~ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	9 人	ベトナム(4人)、 カンボジア(5人)	災害に備え て、~かどう か、まだ~て いません	疑問詞を含まない文の名詞化について学び、完了していない状態の表現について学ぶ。その後、地震などの災害に備えて、どのような準備をしたらいいかを学ぶ。

9	平成 24 年 9 月 25 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	6 人	ベトナム(3人)、 カンボジア(3人)	～とき	「～とき」の表現について学ぶ。緊急時などの対応を考えながら実践的に使う練習をする。
10	平成 24 年 9 月 28 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	7 人	ベトナム(2人)、 カンボジア(5人)	救命処置を身 につけよう、～ なければなり ません	義務・必要についての表現を学ぶ。その後救命処置の基本について学び、その表現も使えるようにする。
11	平成 24 年 10 月 2 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	10 人	ベトナム(5人)、 カンボジア(5人)	～んです、い ちよう小学校 40 周年記念 写真撮影	事情の説明について学び、その後日常生活の中での事情説明を想定して実践的に練習する。いちよう小学校 40 周年記念写真撮影参加。
12	平成 24 年 10 月 5 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	10 人	ベトナム(4人)、 カンボジア(6人)	金融機関を利用する1、～ んですが、～な がら	前回の事情説明の復習をし、さらに疑問文につなげる表現を学び、その後、平行して行う表現を学ぶ。その後、金融機関について話をし、事情の説明をして様々な用紙をもらう練習をする。様々な書式の記入もしてみる。
13	平成 24 年 10 月 9 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	9 人	ベトナム(4人)、 カンボジア(5人)	これまでのま とめ 1	これまでに学んだ文法的内容について、まとめて、確認する。
14	平成 24 年 10 月 12 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	7 人	ベトナム(3人)、 カンボジア(4人)	金融機関を利用する 2	これまでの内容の確認の続きを行った後、ATM の使い方について学び、実際に ATM に行き、操作してみる。
15	平成 24 年 10 月 16 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	6 人	ベトナム(2人)、 カンボジア(4人)	～ています、 そうです(伝 聞)	状況を説明する表現と伝聞の表現について学ぶ。その後、天気予報などを使いながら、実践的に練習する。
16	平成 24 年 10 月 19 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	7 人	ベトナム(3人)、 カンボジア(4人)	消費生活 1、 ～く、～に、あ じがします、に おいがします	動詞の修飾の形と味や匂いの説明について学ぶ。食品などの名前について学び、買い物についての話をする。
17	平成 24 年 10 月 23 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	6 人	ベトナム(3人)、 カンボジア(3人)	～し～し、～こ とにしました	累加の表現と行動の自己決定についての表現を学び、前回の授業で出てきたお店を使って、それぞれに表現する。

18	平成 24 年 10 月 26 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	7 人	ベトナム(3 人)、 カンボジア(4 人)	消費生活 2、 ～ことになりま した、～こと になっています	行動の他者決定の表現と決まっていること についての表現について学ぶ。その後、売 場や会計について学び、様々な物の名前を 学ぶ。
19	平成 24 年 10 月 30 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	9 人	ベトナム(4 人)、 カンボジア(5 人)	意向形、～よ うと思っていま す、休みの予 定、外食	意向形の練習をし、意志の表現について学 ぶ。連休の予定や冬休みの予定などを話 題にし、レストランでの食事についても話を しながら実践的に練習する。
20	平成 24 年 11 月 2 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	5 人	ベトナム(3 人)、 カンボジア(2 人)	役所に行く 1、 ～のために	目的を表す表現を学び、前々回の残りの言 葉などを学ぶ。その後、役所について話を し、目的を伝えたる表現などを実践的に学 ぶ。
21	平成 24 年 11 月 6 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	10 人	ベトナム(4 人)、 カンボジア(6 人)	～ておきま す、～てあり ます	準備の表現や状態の表現について学ぶ。 教室内の状況などを使い、実践的に練習 する。
22	平成 24 年 11 月 9 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	12 人	ベトナム(5 人)、 カンボジア(7 人)	役所に行く 2、 ～すぎます、 ～にします	許容範囲を越えるものの表現と状態を変化 させるときの表現について学ぶ。その後、 役所の様々な書式の書き方などを実際に やってみる。
23	平成 24 年 11 月 13 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	11 人	ベトナム(4 人)、 カンボジア(6 人)、フィリピン(1 人)	～たほうがい いです、～か もしれません	忠告の表現、可能性の表現を学ぶ。健康に ついての話題などで、実践してみる。
24	平成 24 年 11 月 16 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	13 人	ベトナム(5 人)、 カンボジア(7 人)、フィリピン(1 人)	郵便を利用す る 1、～て、～ ないで	行為の付帯状況の表現を学ぶ。郵便局の サービスや言葉について学ぶ。
25	平成 24 年 11 月 20 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	8 人	ベトナム(2 人)、 カンボジア(6 人)	これまでのま とめ 2	これまでの文法的内容についてまとめ、確 認をする。教科書の短文を読み、内容把握 をし、回転寿司やレストランでの経験につい て話を深める。
26	平成 24 年 11 月 27 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	11 人	ベトナム(4 人)、 カンボジア(6 人)、フィリピン(1 人)	条件形	条件形について学ぶ。自分たちの夢の実 現に向けて、何が必要か考え、話をする。
27	平成 24 年 11 月 30 日 10:00～	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	10 人	ベトナム(3 人)、 カンボジア(7 人)	郵便を利用す る 2、～でしよ う	推量の表現を学ぶ。その後ハガキや切手 の買い方、国への手紙の出し方などについ て、実際の場面を想定して、練習する。

	12:00						
28	平成 24 年 12 月 4 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	8 人	ベトナム(2人)、 カンボジア(5 人)、フィリピン(1 人)	～てしまいま す、～たまま	失敗の気持ちを表す表現と状態の持続に ついての表現を学ぶ。教科書での学習後、 実際の失敗体験などを学んだ内容を使って 表現してみる。
29	平成 24 年 12 月 7 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	9 人	ベトナム(4人)、 カンボジア(4 人)、フィリピン(1 人)	郵便を利用す る3、～のは、 ～のが、～の を	動詞の名詞化を教科書を使って学び、その 後不在連絡票に対する対応について、学 習する。実際に電話をかけ、音声も聞きな がら、再配達依頼ができるようにする。
30	平成 24 年 12 月 11 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	9 人	ベトナム(3人)、 カンボジア(5 人)、フィリピン(1 人)	～ように、～よ うにします	「ように」を使った目的の表現と意識して気 をつけていることの表現を学ぶ。普段の生 活で健康や日本語学習、貯金などを題材 に意識的に行っていることを表現してみる。
31	平成 24 年 12 月 14 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	10 人	ベトナム(4人)、 カンボジア(5 人)、フィリピン(1 人)	郵便を利用す る4、～にく い、～やすい	行動の難易度を表す表現を学ぶ。生活上 の様々な行為を題材に「～やすい、～にく い」を練習する。送金について簡単に学び、 実際に郵便局に行き、切手・はがき購入の 練習などを行う。
32	平成 24 年 12 月 18 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	8 人	ベトナム(3人)、 カンボジア(4 人)、フィリピン(1 人)	受身形、～に ～されます	受身形の説明と形の変化について学習す る。様々な状況が描かれた絵を見ながら、 受身形の練習を行う。自分たちの子供の頃 の話などを受身形を使って話してもらう。
33	平成 24 年 12 月 21 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	9 人	ベトナム(4人)、 カンボジア(4 人)、フィリピン(1 人)	地域社会に参 加する1	近所の人と顔を合わせた時、気軽に会話で きるように簡単な声のかけ方やおみやげの わたし方などを練習する。実際に自治会 の人に参加してもらい、練習する。その 後、前回購入した年賀状の書き方を練習 する。
34	平成 25 年 1 月 11 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	7 人	ベトナム(3人)、 カンボジア(4人)	地域社会に参 加する2、～ が～されます	歴史的事実などの表現について学ぶ。団 地や小学校の歴史についてなども題材に して話をした後、地域の自治会の仕組み や地域の施設について学ぶ。
35	平成 25 年 1 月 15 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	7 人	ベトナム(2人)、 カンボジア(5人)	～そうです、 ～ところです	様態のそうだの表現と動作のタイミング の表現を学ぶ。様々な状況が書かれた 絵を見ながら、実際の場面を想定して 練習してみる。
36	平成 25 年 1 月 18 日 10:00～	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	7 人	ベトナム(3人)、 カンボジア(4人)	地域社会に参 加する3、～ てみます、これ	試みるときの表現を学び、これまでの文 法内容のまとめと確認を行う。その後 ゴミ分別の方法について、資料を見 ながら実際にや

	12:00					までのまとめ3	つてみる。
37	平成 25 年 1 月 22 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	5 人	ベトナム(2人)、 カンボジア(3人)	禁止形、～な さい	禁止形と丁寧な命令の表現について学ぶ。 子供に対する禁止や命令などを絵を見な がら、練習してみる。
38	平成 25 年 1 月 25 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	8 人	ベトナム(4人)、 カンボジア(4人)	団地生活のル ール、～という 意味です、～ と言っていまし た	意味を伝えたり、伝達する表現を学ぶ。団 地生活のルールについてを学び、それを学 んだ表現を使いながら伝える練習をする。
39	平成 25 年 1 月 29 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	8 人	ベトナム(3人)、 カンボジア(5人)	～ようです、 ～のに	状況から判断する表現と予想との相違を表 す表現について学ぶ。絵を見ながら、実際 の場面を想定して練習してみる。
40	平成 25 年 2 月 1 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	5 人	ベトナム(2人)、 カンボジア(3人)	電車に乗る1、 ～ばかりです	前回の復習後、～ばかりの表現について 学び、自分の今の状況を表現してみる。そ の後電車についての話をし、電車を利用す るにあたっての基本的な言葉などについて 学ぶ。
41	平成 25 年 2 月 5 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	7 人	ベトナム(2人)、 カンボジア(5人)	使役形、～さ せます	使役形についての表現を学ぶ。子供への 指導などについてを題材に練習してみる。
42	平成 25 年 2 月 8 日 10:00～ 12:00	3 時 間	資生堂工 場	5 人	ベトナム(2人)、 カンボジア(3人)	電車に乗る 2	実際に電車に乗って移動してみる。駅で切 符の買い方を指導し、乗り換えるときの注 意などを行いながら工場見学へ行く。工場 見学後各自自分の帰りの切符を購入して みる。
43	平成 25 年 2 月 12 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	8 人	ベトナム(4人)、 カンボジア(4人)	～させていた だけませんか	工場見学の振り返りを行った後、使役形を 使った丁寧な依頼の表現を学び、実践的に 練習してみる。
44	平成 25 年 2 月 15 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	6 人	ベトナム(3人)、 カンボジア(3人)	電車に乗る3、 尊敬動詞、お ～になりま す、お～くださ い	尊敬動詞についてと丁寧な表現、丁寧な依 頼について学び、駅でのアナウンスや車内 での忘れ物への対応などについて学ぶ。

45	平成 25 年 2 月 19 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	5 人	ベトナム(1人)、 カンボジア(4人)	尊敬形	尊敬形について学ぶ。尊敬の表現を振り返り、依頼の仕方やお礼の仕方について実践的に練習してみる。
46	平成 25 年 2 月 22 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	6 人	ベトナム(2人)、 カンボジア(4人)	バスに乗る、 謙譲動詞、お ～します、ご ～します	謙譲動詞と簡単な謙譲表現について学ぶ。について学び、練習する。バスの乗り方について学ぶ。
47	平成 25 年 2 月 26 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	8 人	ベトナム(5人)、 カンボジア(3人)	これまでのま とめ4、仕事の 面接連絡	これまでに学んだ文法的内容についてまとめと確認を行う。面接のための電話のかけ方を学び、練習する。簡単な面接の練習もする。
48	平成 25 年 3 月 1 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	8 人	ベトナム(5人)、 カンボジア(2人)	タクシーに乗 る、病院に行く	自分の家の周辺にあるものなどについて絵の中に書き込んでみる。タクシーに乗る方法について学び、実践的に練習する。病院についての基礎知識を学ぶ。
49	平成 25 年 3 月 5 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	8 人	ベトナム(5人)、 カンボジア(3人)	確認テスト、 体調の表現と 薬	事前に N4 の問題をやってきてもらい、どのくらいできているか確認する。聴解問題は全体で一緒に行う。体調の表現と薬の処方について学ぶ。病院に行った時の様々なやり取りを学び練習する。
50	平成 25 年 3 月 8 日 10:00～ 12:00	2 時 間	多文化まち づくり工房 事務所	8 人	ベトナム(6人)、 カンボジア(2人)	確認テスト、 趣味と余暇、 まとめ	前回に続き、N4 の問題を使って文法等の確認を行う。その後、自分の趣味や好きなことについてまとめて、表現してみる。地域の周辺の施設や少し遠いアミューズメント施設について話す。最後に全体のまとめとアンケート。

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

12月21日

近隣住民に気軽に話をする方法が中心テーマ。まず年末年始のゴミの収集日程について資料を使って説明し、続けてゴミ出しの時にどのように話しかけるか、自作テキストを使いながら、会話例を学んだ。その後、自治会役員にボランティアとして参加してもらい、実際のゴミ出しの場面などを想像して、天気の話など、自然な会話ができるように練習した。また年末が近かったこともあり、年末年始によく使われる言葉、「よいお年を！」「あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします」などを練習した。

その後、お土産や手料理を渡す時の会話について、会話例を確認し、自治会役員の方と会話練習を行った。自治会役員の方が帰られるシーンでは「よいお年を！」と学んだばかりの言葉が学習者から飛び出した。

最後に年末ということで、前々回の授業で郵便局で購入した年賀状を使い、宛名の書き方や年賀状のあいさつの書き方を学び、実際に一枚ずつ練習として記入した。

2月8日

資生堂に工場見学に行くということで、いつもより早い8時45分に集合して高座渋谷駅に向かい、9時に高座渋谷に到着後、時刻表や料金表を見ながら説明。資生堂の工場がある大船駅を料金表から探し、料金や乗り換えを調べ、実際に切符を購入。自動改札の通り方などを指導しながら、構内に入り、駅構内の説明や電車内での注意などを行う。その後電車に乗り、藤沢駅では一旦改札を出て乗り換え、大船駅着。駅前で地域の方々と合流し、地図を見ながら、工場への行き方を考え、会話をしながら徒歩で工場に向かう。工場到着後、係の方にあいさつをし、工場の歴史や内容、見学の仕方や諸注意について聞き、工場内を見学。見学後、係の方の指示に従いながら、化粧水と乳液の実験を行う。

その後、工場から出て、駅までの歩き方について確認し、徒歩で大船駅に出て、各自自力で切符を購入して、電車に乗り、改札を出ないで乗り換える方法で高座渋谷駅まで帰る。





(10) 目標の達成状況・成果

学習者は大きく分けて、日本に来て数年経つ女性と日本に来て間もない人たちの二つに分けられる。女性たちについては当初よりも日本語を使うことが多くなったという人が増えており、日本語を使わずに生活していた人たちが、教室を通して日本語使用頻度が高まったと言えるのではないと思う。また、来日間もない人については、教室に来てから日本語での会話力を身につけ職に就いた人も多く、また、4名の学生が定時制高校への進学を決めることができたことも大きな成果といえる。

学習者の多くはカンボジア出身とベトナム出身の学習者が多く、それぞれの言語ができる講師、通訳がいた事は大変有効であったといえる。また、アンケートの中でも多くの人が「通訳がいてわかりやすかったか」という質問に高い評価を出している。

(11) 改善点について

学習者は長期で学習を継続することを望んでおり、午前中での学習の場を今後も継続して確保していく必要がある。また、クラス形式も有効であるが、マンツーマンで対応できる形を作り、学習者の発話機会を増やす必要もある。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称 日本語ボランティアの基礎知識

(2) 目的・目標

地域内で育った外国にルーツを持つ若者や多文化共生のまちづくりに興味を持つ若い世代を中心に、日本語教育の基礎を身につけてもらいつつ、それぞれの母語の力などを活かしながら地域の日本語教育活動に参加する人材を養成する。また、この集まり自体がこの地域に活気を与える集まりとなることが目標である。

(3) 対象者

外国にルーツを持つ人たちで中級以上の日本語力がある人や周辺地域の大学の学生など、若い世代を中心とした、地域に関わっていこうとする意識を持った人たち。

(4) 開催時間数(回数) 30 時間 (全 10 回)

(5) 使用した教材・リソース

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム教材例集、新・はじめての日本語教育、とりあえず日本語で、みんなの日本語文型練習帳

(6) 受講者の総数 12 人

(出身・国籍別内訳 ベトナム 5人, 中国 2人, 日本 5人)

(7) 受講者の募集方法

地域内の既存の日本語教室や人が集まる場でチラシを配布。

(8) 養成・研修の具体的内容

1	平成24年9月8日 17:30～21:30	3時間	多文化まちづくり工房事務所、いちようコミュニティハウス	11人	ベトナム(5人)、中国(2人)、日本(4人)	地域の日本語ボランティアについて考える	ベトナム語、中国語で簡単な自己紹介を教えてもらい、お互いに自己紹介。多文化共生についてや日本語を教える上での気持ちの持ち方などについて学ぶ。その後日本語教室で実体験し、最終的に振り返りを行う。	1名	長谷部美佳	1名	ゲン・ファン・ティ・ホアン・ハー
2	平成24年9月22日 17:30～21:30	3時間	多文化まちづくり工房事務所、いちようコミュニティハウス	12人	ベトナム(5人)、中国(2人)、日本(5人)	日本語ボランティアの基礎知識1	日本語の文字・音声・表記について考える。他の言語の文字や音声とも比較しながら、拍とリズムやアクセント、分かち書きなどについて学ぶ。その後日本語教室でマンツーマン授業を行い、実体験を経て振り返りを行う。	1名	和泉朝子	1名	ゲン・ファン・ティ・ホアン・ハー
3	平成24年10月13日 17:30～21:30	3時間	多文化まちづくり工房事務所、いちようコミュニティハウス	11人	ベトナム(5人)、中国(2人)、日本(4人)	日本語ボランティアの基礎知識2	名刺と名詞文について学び、形容詞と形容詞文について学ぶ。イ形容詞・ナ形容詞の活用について学ぶ。その後日本語教室でマンツーマン授業を行い、実体験を経て振り返りを行う。	1名	和泉朝子	1名	ゲン・ファン・ティ・ホアン・ハー
4	平成24年10月27日 17:30～21:30	3時間	多文化まちづくり工房事務所、いちようコミュニティハウス	9人	ベトナム(2人)、中国(2人)、日本(5人)	日本語ボランティアの基礎知識3	動詞についての基礎を学ぶ。グループわけについて学び、ます形・て形・た形・ない形・辞書形などの活用について学ぶ。その後日本語教室でマンツーマン授業を行い、実体験を経て振り返りを行う。	1名	和泉朝子	1名	ゲン・ファン・ティ・ホアン・ハー
5	平成24年11月10日 17:30～21:30	3時間	多文化まちづくり工房事務所、いちようコミュニティハウス	11人	ベトナム(5人)、中国(2人)、日本(4人)	日本語ボランティアの基礎知識4	動詞についての基礎知識を学ぶ。可能形・意向形・命令形・受身形・使役形・禁止形・尊敬形について学ぶ。その後日本語教室でマンツーマン授業を行い、実体験を経て振り返りを行う。	1名	和泉朝子	1名	ゲン・ファン・ティ・ホアン・ハー
6	平成24年11月24日 17:30～21:30	3時間	多文化まちづくり工房事務所、いちようコミュニティハウス	9人	ベトナム(4人)、中国(1人)、日本(4人)	日本語ボランティアの基礎知識5	学習者がつまづきやすい、授受表現や自動した動詞について学ぶ。その後日本語教室でマンツーマン授業を行い、実体験を経て振り返りを行う。	1名	和泉朝子	1名	ゲン・ファン・ティ・ホアン・ハー
7	平成24年12月8日 17:30～21:30	3時間	多文化まちづくり工房事務所、いちようコミュニティハウス	9人	ベトナム(4人)、中国(2人)、日本(3人)	いちよう団地とそこに住む人たち	いちよう団地という地域の状況やそこに住む外国籍の人達の現状についてなどを学ぶ。その後日本語教室でマンツーマン授業を行い、実体験を経て振り返りを行う。	1名	早川秀樹	1名	ゲン・ファン・ティ・ホアン・ハー
8	平成25年1月19日 17:30～21:30	3時間	多文化まちづくり工房事務所、いちようコミュニティハウス	7人	ベトナム(3人)、中国(1人)、日本(3人)	地域生活に必要な情報と日本語1	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案などを参考にしながら、交通機関の利用や行政機関、買い物など日常の地域生活に必要な場面を具体的に考え、授業の中で活かす方法について学び考える。特にそ	1名	早川秀樹	1名	ゲン・ファン・ティ・ホアン・ハー
9	平成25年2月2日 17:30～21:30	3時間	多文化まちづくり工房事務所、いちようコミュニティハウス	10人	ベトナム(4人)、中国(2人)、日本(4人)	地域生活に必要な情報と日本語2	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案などを参考にしながら、病気やケガ、災害など非日常的な状況で必要となる情報や日本語について、場面を具体的に考え、授業に活かす方法について学ぶ。その後日本語教室でマンツーマン授業を	1名	早川秀樹	1名	ゲン・ファン・ティ・ホアン・ハー
10	平成25年2月16日 17:30～21:30	3時間	多文化まちづくり工房事務所、いちようコミュニティハウス	9人	ベトナム(3人)、中国(1人)、日本(5人)	様々な教材や資料について、まとめ、質疑応答	教室活動で使いやすい教材の紹介やインターネットなどで入手できる教材の紹介などを行い、いろいろな教材を比較しながら、自分なりの活かし方を考える。その後日本語教室でマンツーマン授業を行い、実体験を経て振り返りを行い、最終的なまとめを行う。	1名	早川秀樹	1名	ゲン・ファン・ティ・ホアン・ハー

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

10月27日

動詞の特徴について学び、各自思いつく動詞を挙げていく。その後、グループわけについて説明。それぞれのグループの特徴や教える時の効率的な順番などについても説明。前に挙げた動詞をグループ分けしてみる。その後、ます形・て形・ない形・辞書形・た形の活用について学ぶ。「いちりって、びみにんで、きいてぎいで」の教え方(歌を使った方法など)についても学ぶ。

日本語教室に移動し、マンツーマンの形で実際に日本語ボランティア体験をしてみて、教室終了後、各自が教えた内容を振り返り、気がついた点や難しかった点について共有し、講師から助言をもらう。

12月8日

自分たちの活動しているいちょう団地とその周辺地域について学ぶ。いちょう団地や園周辺に住む外国籍の人達の国籍や背景、割合などについて説明した後、いちょう団地の周辺施設や自治会組織などについても説明。学習者が生活でふれそうな日本語についても意見を出し合う。自分たちが学習者たちと話すときにどんな内容の話をしたら分かりやすいか、どのような例を提示したらイメージしやすいかなどについても考える。

日本語教室にて日本語ボランティア体験後、教えた内容を振り返り、気がついた点や難しかった点について共有し、講師から助言を受ける。





(10) 目標の達成状況・成果

今回の講座の参加者は地域に住む外国籍の人たちと周辺から集まる人日本人とが半々に近く、どちらも日本語ボランティアに興味があるものの、どうやって教えたらいのか、という知識を得る機会がなかった人たちであった。もともと日本語ボランティアに参加していた人もいたが、この講座を通して、新たに日本語ボランティアを始めた人も多くいた。また、これまでなんとなく日本語ボランティアをしていた人も、日本語文法の基礎や地域の背景、学習者に必要な日本語などのことをあらためて知る機会となり、今後日本語を教えるという活動を通して外国人と接して上では非常に有意義な時間となったようである。

(11) 改善点について

今回は回数的にはコンパクトなものだったので、多くの回数での講座も必要かもしれない。また、活動に加わった人にとってあらたな気づきを得られるような場を今後も継続していく必要がある。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称 ともに生きるまちづくりのための日本語

(2) 対象

初級前半から初級後半程度の人たちを主な対象とする。また、地域に多く住んでいる人にあわせ、中国語、ベトナム語、カンボジア語の翻訳を作成する。

(3) 目的・目標

外国籍住民が地域で生活していく上で必要不可欠な言葉や会話、知識などを「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案を参考にしながら、地域の諸機関と連携した上で作成し、必要な部分については地域のニーズに合わせた言語に翻訳をする。

(4) 構成

全 62 ページおよびベトナム語、カンボジア語、中国語の 3 言語対訳版。

- ・ 119番通報 4P
- ・ 救命処置 2P
- ・ 消費生活 14P

- ・ 金融機関を利用する 4P
- ・ 電車に乗ろう 9P
- ・ バスに乗ろう 6P
- ・ 市役所・区役所 8P
- ・ 地域社会に参加しよう 6P
- ・ 郵便を使う 9P

(5) 使い方

まず、話題のテーマとして、それぞれの内容について会話をします。対訳や可能であれば通訳も活用しながら、会話の内容をふくらませる。その後、地域の中や周辺の情報を中心に、言葉や名称などを分かりやすいように写真や対訳や通訳を使って説明し、その後会話例などについて練習をする。できるだけ身近な場所などの名前を使って言い換えなどの練習を行う。

(6) 具体的な活用例

地域内で行われている日本語ボランティア教室で補助教材的に活用する。また、分野によっては地域の自治会や消防署などが行うイベントや防災訓練などの中で活用していく。

(7) 成果物の添付

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

多数の外国人が集住する地域において、日本語教室は日本語習得の場・人のつながりを作る場として外国人住民にとっては必要不可欠な場であると同時に、日本人住民の高齢化が進む中で、これからの地域を支える人材を育てるという意味では、地域にとっても重要な場である。日本語教室という場を、地域の自治会や学校、様々な行政機関などと連携しながら作っていくことで、外国人住民とともに暮らしていくまちづくりを行なっていく。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

日本語学習の場を確保すると同時に、その場だけでなく、地域の住民や様々な施設に関わることができる教室を行えたことは地域にとっても大変効果的だったと思う。地域の方には日本語教室に参加してもらったり、消防署、警察署、コミュニティハウス、他団体と協力して通報訓練を行ったりと様々な形での連携を作ることができた。また、区役所とも関わっていくきっかけとすることができ、区長と話をしたり、区が行なったボランティア講座などにも講師として参加させてもらったりと連携を深めることができた。

また、人材の養成事業を通して、地域の中で活躍できる若い世代が、より地域の日本語教室活動に参加しやすい形を作れたことは意味深かったと思う。こういった力が学習者や地域住民などとつながることで、より外国人が暮らしやすいまちづくりができると思う。

教材作成についても地域の日本語教室だけでなく、自治会などの活動の中でも活用できるように自治会と共に考えていくことで、今後も連携していくきっかけとすることができると思う。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

日本語教室で教材として直接的に活用したり、これをもとに教材を作ったりして日本語教室の中で活用した。実際の生活場面での会話や言葉を学ぶことができ、補助的に使っていれば、と思った。また人材の養成の中でもこういった視点の教材を紹介することで、教える時の視点や言葉や場面の選び方にも参考になったと思う。

また、学習者にとっても自分が生活の中で何ができ、何ができないのかをチェックしながら学ぶ目安にすることができたのではないかと思う。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

地域の関係者との連携をしてもらうことで、地域住民と日本語学習者の顔の見える関係を作ることができ、何気ないあいさつなどの場面が増えたのではないかと思う。それは日本語学習者だけに効果のあることではなく、地域の側にとっても意味あるものだったのではないかと思う。またこういった関係を作ったことで、今後のまちづくりにも生きてくる人のつながりになりうると思う。

(5) 改善点、今後の課題について

教室運営や教材作成に際し、区役所などにつないでもらったりしながら、企業とも交渉を行ったが、積極的な関わりにしていくことができなかった。地域内や周辺では外国籍住民に対する理解などが深まっていると思うが、地域から離れた所では、まだその課題には気づいていない人、組織も多いということにあらためて気がつかされた。企業にとって外国籍住民が生活の幅を広げることがプラスになる、ということをどうやって伝えていくか考える必要があると感じた。

また、日本語学習者は不安定ながらも継続的に学び続けたいと思っている人が多く、地域の中でもっと集中的に、継続的に学べる場を作っていく必要があるとあらためて感じた。